

有明の月西都出、遙東成神路山、於越ルコトヲモヘバトヲクモ行南物哉、限モナク鹽風ヤ船出仁任、悠々浦海過、蕩々波瀾ヲシノギ、千里ノ峯ヲ越、野仁臥山仁留、老體ヲ相助ケ、今日トイヘバ伊勢山田仁參著、爰仁大川有リ、尋ヌレバ豐宮河ト云、古老傳ニ阿部川原ト云、万葉集ニ度會川齋宮川讀、是成ベシ、然者下樋小川、竹川、小俣田、板田橋、大淀、小野、古江等ノ名所モ可近、かしこに舟橋、於渡シ、竹網エタリ、是モ自他國參ラヌト見エテ、河水ニ望、身徠太麻等持しめて、御禊する人もありけり。

宇治橋

〔伊勢參宮名所圖會〕<sup>四</sup>宇治橋 宇治郷にあればかく號けり、川は五十鈴川也、普通の橋より反あのさ四間半、正中前後に鳥居あり、柱の太さ末口三尺、高さ二丈三尺、土入六、常彰神主曰、いにしへ此橋は、是より十餘町下流の中村曾波河原に有て、板橋の類なりしを、永享三年普廣院將軍義教公御參宮の時、今の如き大橋を架られたり。

〔神民須知〕<sup>今</sup>ノ大橋ノ邊ハ、昔ハ川ノ洲ニテ人家モ無ク、神官家モ大半中村ニ居住セリ、其後川ノ洲平地トナリ、人家モ立チ續キ、神官家モ宇治ニ移住シ、ヨキニツキテ大橋ヲ今ノ處ニ架セシナリ、昔大橋ノソバ川原ニ在リシ證據ハ、先年今ノソバ川原ノ橋ノ處ニテ大ナル橋杭等ヲ掘リ出シキト言ヘリ、然ルニ士佛參詣記ニ、又瀧祭神トテ河ノ洲崎ニ松杉ナンドノ一村立テル計ニテ御社モマシマサズ、略○中北ヲ望メバ長橋ノ流ヲキル有リト云フ、思フニ夫ノ瀧祭ヨリ今ノ大橋ノ方、即北ニ當レバ、假令大橋今ノ處ニアラズトモ、見エワタリタル川下、岡田郷ノ内ニ在リシナルベシ、

〔神拜次第秘抄〕<sup>上</sup>一御裳濯川橋。

此橋壹基、渡子東西長五十間五尺二寸、廣四間三尺二寸、高欄高四尺八寸、儀帽子柱長八尺、立鳥居於前後、各高二丈三尺三寸、廣壹丈七尺八寸也、此橋元在川原田村、今云中之南川、今云波川、原將軍義